

<p>学級別 力 教 師 力 を 向 上 さ せ ま す</p>	<p>校内研究等のOJTの充実を通して、教師の授業力を向上させます。また、質の高い教育を実現するため、学校の組織的な運営力を向上させます。あわせて、教師がやりがいをもって働くことができる魅力的な環境づくりを進めます。</p>	<p>①児童・生徒一人ひとりの可能性を引き出す個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実の視点による授業改善を行っている。</p> <p>②教職員がそれぞれの専門性を生かしたり、地域の特色を生かしたりして教育活動を行っている。</p> <p>③教職員の業務適正化等に取り組み、児童・生徒に教員が向き合う時間を確保する等、ウェルビーイングを高める取組を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>児童アンケート「授業が分かりやすく楽しい」の肯定的回答の割合</p>	<p>4:2つのアンケートの割合が90%以上</p>	<p>①教員は、今年度から実施された独自教材「おたの未来づくり」を通じて、第5、6学年は地域の魅力や地域の課題や悩みを解決するために、児童一人一人がそれらと向き合えるような授業づくりを行ってきた。第1学年から第4学年においては、素地づくりとして生活や総合的な学習の時間などを通じて、地域・社会の人々と交流する時間を意図的に設定したり、他教科において話し合い活動や思考ツールを活用して考えを整理分類する機会を設けた。このような場を設けたことで、話し合い活動を肯定的に促せることができるようになり、今年度の学習発表会のような行事が実施できた。</p> <p>②今年度は若手教員の授業力向上を図るために、研修の方法を一新し、若手教員とベテラン教員を混ぜた2つのグループを作り、授業づくりを定期的に話し合う時間を設け、授業の実践を行った。若手教員は、自己の担当以外の学年の授業づくりに参加することで、知識の幅を増やすとともに、ベテラン教員からのアドバイスを基に専門性を高めることができた。</p> <p>③今年度は昨年度までの分掌を割り当てると共に、人材育成を兼ねて若手教員をペアとなるように配置した。また、会議等の時間を短縮し、教材研究やOJTに割り当てられるように、運営会議で十分に話し合いを行うことで質の向上と時間短縮を可能にした。次年度は、分掌の組織をまとめ、人員を増やすことで教員一人一人にかかる比重を軽減し、人材育成にも励んでいく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>8</p> <p>2</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>・児童・生徒の指導については、「自ら考える」という癖付け等が大切。</p> <p>・教職員の皆様の業務量適正化等重要で教書金側の心身の余裕も必要。</p> <p>・左記の自己評価を見て正確だと判断した。</p> <p>・いつもありがとうございます。さらに専門性を高めて頑張ってください。</p>
<p>た自個 め分別 ら目 学し びく 5 を い き 支 援 し き と 生 き る</p>	<p>困難のある児童・生徒一人ひとりの状況にあわせて教育環境を整えるとともに、相談機能の充実を図ることで、すべての児童・生徒が自分らしくいきいきと生きるための学びを支援します。</p>	<p>①インクルーシブ教育システムの構築に向けて、教員の資質・能力の向上や校内における支援体制の充実、特別支援教室巡回指導教員との連携等を行っている。</p> <p>②学校いじめ防止基本方針に沿って、いじめの未然防止、早期発見、早期対応等のための組織的な対応を実施している。</p> <p>③スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーとの連携等、児童・生徒・保護者が相談しやすい環境を整備し、一人ひとりの能力や可能性を最大限に伸ばすことを意図した指導や支援を行っている。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>3</p>	<p>児童アンケート「困ったことがあったとき、先生は話を聞いてくれる」の肯定的回答の割合</p>	<p>4:3つのアンケートの割合が90%以上</p>	<p>①特別支援教育に対する教員の理解を深めるための研修を実施した。また、校内委員会を対象児童の共通理解を基に適切に学びの場を保障するよう支援の方法について協議した。</p> <p>②いじめアンケートをもとに児童の友達関係での悩み等に対して早期発見・早期対応を心がけた。今後も、担任だけでなく、学年、BPC委員会など組織的な対応を心がけて、児童にとって安心、安全な学校を目指していく。また、道徳の授業の中でも取り上げるなど、教育活動全般で心の教育を進めていく。</p> <p>③担任を通じてスクールカウンセラー(SC)との相談を予約をする以外に、保護者から直接相談できるよう知らせている。また、「スクールカウンセラーより」で、SCの来校予定日を知らせたり、児童が直接相談予約ができる「予約カード」を準備したりしている。問題行動、不登校問題等にかかわる児童に関して、定期的な情報共有を行い、児童の学校への適応を促す働きかけを行っている。今後もスクールカウンセラー、関係機関との連携を積極的に進め、課題の早期解決を目指していく。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>9</p> <p>1</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>・まずは教職員の方々が、一人で抱え込まないことであると思っている。教員間での可能な限り共有して取り組むことが大切でその連携は十分とれていると認識される。</p> <p>・アンケート調査はあくまで参考であり、教育現場で対応している事実の実態が大切で、教職員の皆様が一番理解・認識していると思っっている。従ってそうした実態・認識を大切にしてほしい。</p> <p>・いじめ等は教員の皆様が一番発見、理解、認識を促すと思う。キ教員の皆様が一人でも悩まないことである。相談体制は確立されているので、これまで通りうまく活用してください。</p> <p>・左記の自己評価を見て正確だと判断した。</p> <p>・インクルーシブ教育はとても難しい課題だと思います。一人一人を大切にすることは、森トク大事なことではあります。まず、対処する事案があれば、対応できる環境づくりと早期に動くというところが伝わるようにサポートをお願いします。</p>
<p>安柔個 心軟別 なで 目 育 創 標 造 6 環 境 な を 学 び 空 間 と 安 全 ・</p>	<p>学校施設について、ICT環境等の教育環境を推進するとともに、児童・生徒の安全・安心を向上させるための教育を推進します。</p>	<p>①学校や地域の伝統・特色や、安心・安全な学校生活づくりを踏まえて、学習環境を整備している。</p> <p>②避難訓練や安全指導日などを通して、危険や災害に対する教育を関係機関と連携しながら進めている。</p> <p>③ICT機器や情報管理を徹底することで安全に活用するとともに、児童がICT機器を活用した学習を実施する。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>保護者アンケート「学校はタブレットPC等のICT機器を活用した教育活動を行っている」の肯定的回答の割合</p>	<p>4:2つのアンケートの割合が90%以上</p>	<p>①今年度は、おたの未来づくり科の学習でこれまでよりも一層、地域と連携をとることができた。その際には、教室掲示や地域の方をゲストに招き、授業を行ったり地域の魅力をより、伝えるために、地域の企業や団体とも連携するようになった。</p> <p>②毎月の避難訓練では、担当者だけでなく、管理職をはじめ、全教員からの意見や助言を柔軟に受け止めて、日々実施内容をより良いものになるように変更して避難訓練を行っている。</p> <p>③低学年では、日々の調べ学習や記録写真等で活用している。高学年では、プレゼンテーションやアンケート、情報収集等で活用した。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>10</p> <p>0</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>・ICT環境の一層の整備、一定の個別最適化等への推進必要。</p> <p>・左記の自己評価を見て正確だと判断した。</p> <p>・今後期待している。</p> <p>・ICTの活用はともいいいことだと思えます。大人もそうですが、ICTに頼りすぎてしまうと文字の読み書きができなくなったり、また、字を書くことをしなくなるので、きちんとした文字が書けないこともあるので気になります。</p>
<p>学地学個 校校校別 をコ・目 つミ家標 くユ庭フ リニ・ ますイ テ地 域の 核運 と携 し・ て協 働に よる</p>	<p>地域コミュニティの核としての学校づくりや地域の特色を生かした学校づくりを進めるとともに、学校・家庭・地域が連携・協働して、地域社会全体で子どもたちを育成します。</p>	<p>②登下校の見守り活動等の、児童・生徒の健全育成や安全指導に係る取組を地域の協力により実施している。</p> <p>③家庭教育に関する情報の発信やPTAなどと連携した講演会・学習会、またはその双方を実施している。</p>	<p>4:「おおむねできた」と全教員が回答した。</p> <p>3:80%以上100%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>2:60%以上80%未満が「おおむねできた」と回答した。</p> <p>1:「おおむねできた」と回答した教員が60%未満であった。</p>	<p>4</p>	<p>保護者アンケート「学校は、地域の力を子どもたちの教育活動に生かしている」肯定的回答の割合</p>	<p>4:90%以上</p>	<p>①おたの未来づくり科の地域創生の点から地域の方との協力を得るため、積極的に交流できた。水止舞、ふるさとの浜辺公園、海苔づくりの歴史、地域の健康のための食文化など、また地域も保護者も学校の行事に協力いただき、本当に感謝している。これからは学校、家庭、地域が一緒になって本校の児童を育てていく。</p> <p>②毎日、朝校門の付近や交差点などで、児童にあいさつをしてくださっている。また、交通安全の際には多くの方が登下校時に見守りをしてくださっている。</p> <p>③学校保健委員会、道徳授業地区公開講座、体育・健康教育授業地区公開講座、海苔付け体験や歯ブラシ指導、セーフティ教室などPTAから保護者に声をいただくことがあり、大変にありがたく思っている。今後も、たくさん参加していただけるような企画を一緒に考えていきたい。</p>	<p>A</p> <p>B</p> <p>C</p> <p>D</p>	<p>10</p> <p>0</p> <p>0</p> <p>0</p>	<p>・登校時の挨拶運動は、良好であると思うが一部特別な児童かと思うのがなかなか難しいと思う。むしろ家庭でのしつけの大切さをPTAの皆様はどう認識いただけるか多少不安がある。</p> <p>・左記の自己評価を見て正確だと判断した。</p> <p>・地域に融れることは、その地域に住んでいる証です。ぜひとも今後も地域を巻き込んだ形での連携をお願いします。</p>
<p>その他</p>						<p>1:59%以下</p>				<p>・アンケート調査の前年対比等は私はあまり気にしていない。信念と自信をもって今後も指導してください。</p>

○「成果評価」は、各校が4段階で定めた成果指標によって行う。
○記入にあたっては、各学校で取り組んでいる自己評価項目に照らし、該当する項目を取りまとめて行う。
○学校関係者評価の「評価」は、A:自己評価は適切である B:自己評価はおおむね適切である C:自己評価は適切ではない D:評価は不可能である の4点について、評価した人数を記載す